九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[007] 総合文化学論輯表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1955364

出版情報：総合文化学論輯. 7, 2017-11-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies
バージョン：
権利関係：

尾道学特集

「尾道学」（Onomichi-gaku＝Onomichi Studies）という言葉で新たな学問の可能性を提唱したのは、当・総合文化学会会長の荒木正見ということになっている。それは、荒木正見編著・鈴木右文共著『尾道学と映画フィールドワーク』（中川書店、2003 年）に基づく。ここで求める方向性の概要については、以下の荒木正見論文「尾道学の方向性」で述べられる。

その頃、尾道市在住の方々が立ち上げたのが「尾道学研究会」である。代表者・天野安治氏は代々の尾道の豪商のご子孫で、温厚なお人柄をもって尾道学研究会をまとめ運営してくださっている。さらに、以下に大部の論文「地域学の一例としての「尾道学」の構築と実践」を寄せて尾道学研究会の活動を示してくださった林良司氏は、長くその事務局長として実践の中核をなしてくださった。林氏はそのような活動が評価されて、現在、尾道市の平谷祐宏市長のもとで編纂されている「尾道市史」の編集に中心的役割を以て携わっておられる。この平谷市長も尾道学研究会の企画講演会などにも参加されたりして、尾道学の成果を市政に生かそうされておられる。

かく、地域学のひとつとしての尾道学は、理論・実践の両面とも充実して展開しているが、それも尾道という都市の歴史的蓄積あってのことである。当、「総合文化学論輯」においても、これまで尾道関係論文を掲載してきたし、尾道市在住の作家・大学教授の光原百合先生をお招きして講演・シンポジウムも行ってきたが、データ分類の便宜からも、データベース保存においても、今後は、本誌の一角に尾道学特集コーナーを設けたい。

林良司氏の、新書本一冊にも相当しようかという大部の論文「地域学の一例としての「尾道学」の構築と実践」はその嚆矢としてまことにふさわしいものであるといえよう。

（筆：荒木　正見）